

<編集後記>

投稿規定改定を機に、投稿論文増加を期待して

KONCの現地見学会が、7月5日に和泉の信太山（しのだやま）で開催されました。6月号の編集後記で7月の行事を語るのは、いささか気がひけますが、大阪に残る数少ない湿地でのフィールドワークは、ひじょうに有意義なものでした。詳細については、次々号に譲りますが、モウセンゴケ、コモウセンゴケ、イシモチソウ、スイラン、カキランなどの開花と生育地を久しぶりに見ることができただけでなく、昆虫、魚類、植物などさまざまな分野の研究者が集い、信太山の湿地を保全・管理する方々と意見交換できたのは、KONCならではの企画といえます。いまや希少種だけではなく、湿地を構成する植物群集およびそこに生息する生物群集すべての保全を目指さなくてはならないほどに、日本の湿地は危ういのが現状といえます。この信太山に断片的に残る湿地の現状と管理については、今後、本誌で詳細にとりあげたいと考えています。

さて、今号の特集には、2008年11月に開催された「かんさい自然フェスタ2008－楽しみ・伝え・まもる私たちの自然－」で行われたシンポジウム特集の第一弾を掲載しています。本号では、「開発から自然を守るには－開発計画への予防と対策－」に関連して、中瀬氏、森氏が、「自然保護運動に役立つ自然保護教育とは」に関連して、布谷氏、高島氏が、「シカが森を喰べ尽くすまえに－研究から保全への展開をさぐる－」に関連して、常俊氏と前迫の記事が掲載されています。次号には、「大阪湾の自然再生をめざすネットワーク活動の方向性を考える」、「近畿地方における外来種問題への取り組み」、「カエルのきもちを忘れない」、「タンポポセミナー」などの記事を掲載予定です。ご期待ください。

さいごに、2000年6月号以来、9年ぶりに投稿規定と執筆要領の改訂を行ったことを報告させていただきます。市民から研究者まで幅広く研究論文などの記事を投稿いただき、迅速かつ的確な査読体制のもとに、本誌に良質な記事を掲載することをコンセプトとして、編集委員会で検討を重ね、改訂版を作成しました。会員のみならずの研究と活動の成果を本誌に投稿いただきますよう、あらためてお願いいたします。暑い夏を元気におすごしください。

（前迫ゆり）